

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和4年10月21日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから10月21日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明をいたします。

まず、2ページ目の10月25日の（4）ですけれども、第1085回の審査会合です。

議題は2つで、1つ目は東海第二の設工認ということで、これは新規制基準のほうではなくて放射線モニタの設置場所の変更という個別案件のようです。前回6月23日のコメントへの回答ということのようです。

2つ目が、泊3号機の許可で、これは前回9月29日に引き続いて設計基準関係のということのようです。

次が、10月26日の（6）1F（福島第一原子力発電所）の監視・評価検討会です。

議題は5つ書いていまして、1つ目が10月12日の委員会の議題にもなりました技術会合の設置というものを改めてこの場でも報告するということと、2点目から4点目は東電側からの報告なり回答なりということで、議題の2つ目がスラリーの安定化処理設備についてということで、前回宿題が出ましてその回答ということのようです。

3つ目は、耐震設計の考え方ということで、前回規制庁側から考え方を示したということのようで、それに対する東電側からの見解が示されるということのようです。

4つ目が、ゼオライト土嚢の処理の検討状況について、これも東電から報告があります。

最後、5つ目、NDF（原子力損害賠償・廃炉等支援機構）の技術戦略プランというものについて、年1回の改定をされたということで、NDFのほうから報告があります。

次が、10月27日の（8）核燃料施設等のほうの審査会合です。

議題は2つで、1つ目は京大炉の設工認というもので、中央管理室の移転という案件で、これはもうほとんど終わっていたのですけれども、資料の一部訂正があるということで、その報告ということのようです。

2つ目が常陽でありまして、火災防護とか耐震評価、使用済燃料の処分方法など残った論点が幾つかあるようで、それについての議論ということのようです。

次が、10月27日の（9）第1086回審査会合です。特重が議題のため非公開です。

議題は2つで、女川と島根ということになります。女川と島根の許可になります。

次が、10月27日の（10）中深度処分対象廃棄物の濃度決定方法に係る検討チームということで、これは昨年11月以来の開催となりますけれども、そのときに出ていた宿題への回答などがあります。

次が、4ページ目に行きまして、10月28日の（11）第1087回審査会合です。これも特定重大事故等対処施設が議題なので非公開で、議題は1つで伊方3号機の基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価ということです。

最後が、10月28日の（12）第1088回審査会合です。

議題は3つありまして、1つ目が泊の津波評価ということで、宿題が出ている作業についての進捗状況の報告などがあります。

議題の2つ目と3つ目は、九州電力の川内と玄海の標準応答スペクトルの件で、これまでに引き続きまして地下構造モデルの件の議論が行われます。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けいたします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上といたします。ありがとうございました。

—了—